

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25870731

研究課題名(和文)近代エジプトにおけるファラオ主義とコプト・キリスト教徒の国民統合

研究課題名(英文)Pharaonism and the National Integration of the Coptic Christians in Modern Egypt

研究代表者

三代川 寛子(MIYOKAWA, Hiroko)

上智大学・アジア文化研究所・客員所員

研究者番号：90614032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀末から20世紀初頭にかけての時期、エジプトのコプト・キリスト教徒が主体となって推進された文化ナショナリズムの思想、運動を3つの事例から検討した。(1)コプト暦の元日祭の復興運動、(2)コプト語の復興運動、(3)コプト博物館の設立とその国有化がその3事例であり、それぞれの事例から、コプト・キリスト教徒の間では、宗教的アイデンティティがエジプト民族としてのアイデンティティ構築に重要な役割を果たしていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I analyzed cultural nationalist movement led by Coptic Christians in Egypt in the nation-building era (late 19th-early 20th century). I focused on three cases which are (1)the revival of the New Year's Day festival of the Coptic Calendar, (2)the revival of the Coptic language, and (3) the establishment of the Coptic Museum and its Nationalization. Through these three cases, I clarified that Coptic religious identity played an important role in constructing Egyptian ethnic identity among the Coptic Christians in the period.

研究分野：中東地域研究

キーワード：ナショナリズム エジプト コプト・キリスト教徒 近代史

1. 研究開始当初の背景

本研究の主な研究対象であるエジプトのコプト・キリスト教徒(以下、コプト)は、エジプトの人口のおよそ7~10%を占める宗教的マイノリティである。このコプトという集団に関しては、宗派対立や差別問題が議論の俎上に上る度に、リベラリズムに基づくエジプト・ナショナリズムが喧伝され、それが説得力を持ってムスリム・コプト双方に受け入れられる状況がある。その一方で、エジプトという国家のイスラーム的性格が議論されると、国を二分するイデオロギー論争が発生するなど、エジプト社会においてイスラームは非常に重要な位置を占める。すなわち、エジプトにおいては、国民統合イデオロギーが複数存在し、それらが競合している状況があり、コプトの人々はそうした状況に翻弄されてきた。

研究代表者は、本研究開始前までは、主に1970年代以降のコプト共同体のエジプト社会における位置づけをめぐる問題に取り組んできた。それを通して、問題の焦点は、宗教の違いを敢えて無視するリベラルなエジプト・ナショナリズムと、1970年代以降台頭してきたイスラーム主義の対立ではなく、むしろイスラームがエジプトのナショナル・アイデンティティの中核に位置づけられるか否かであると考えに至った。また、エジプトのナショナル・アイデンティティや統合イデオロギーに関する問題に取り組むためには、その土台となる国民国家創設期、つまり19世紀末から20世紀前半のナショナリズム思想の再検討が必要であると考えに至った。そのため、申請者は20世紀初頭のコプトによる文化ナショナリズム、特にファラオ主義に注目した研究に着手した。ファラオ主義とは、19世紀以降主にヨーロッパ諸国の考古学者らによってエジプト考古学が進展した結果発生した、エジプト・ナショナリズムの一つの潮流である。

2. 研究の目的

先行研究において、コプトのファラオ主義運動には十分な関心が払われてこなかった。例えば、20世紀前半のコプトの政治的・社会的状況を扱った重要な先行研究としては、B. L. Carter, *The Copts in Egyptian Politics*, Croom Helm, 1986. が挙げられるが、この中では当時のリベラルなナショナリズム思想やコプトの政治参加など重要なテーマについて詳述されているものの、コプトのファラオ主義についての言及は限定的である。

そこで研究代表者は、4年間の研究期間内に、コプトのファラオ主義運動の事例として(1)ナイルズ祭復興運動、(2)コプト語復興運動、(3)コプト博物館設立、(4)ウンマ・コプティヤ運動を取り上げ、それらの検討を通してコプトのエジプト・アイデンティティ形成の過程を明らかにしていくことを目的として研究活動を開始した。

3. 研究の方法

本研究は、知識人の言説分析を主とするため、文献資料を基にした質的な実証研究である。

研究の方法は文献調査であり、エジプトの国立図書館、国立文書館、コプト正教会付属の図書館、カトリック教会付属の図書館などを利用し、19世紀末から1930年代ごろまでのコプトの定期刊行物および書籍を収集した。それに加えて、アラビア語による先行研究の収集のため、カイロ大学中央図書館やアレクサンドリア図書館などを利用した。

その他には、旧宗主国であるイギリスの国立公文書館や大英図書館でも資料収集を行い、イギリスの対コプト政策について調査を行った。また、東京大学東洋文化研究所所蔵のエジプト議会議事録も資料として用いた。

4. 研究成果

当初の目的通り、エジプトの国民国家形成期(19世紀末から20世紀前半)における、コプトのナショナル・アイデンティティ形成過程を明らかにした。

当初、事例は4例((1)ナイルズ祭復興運動、(2)コプト語復興運動、(3)コプト博物館設立、(4)ウンマ・コプティヤ運動)の予定であったが、第4の事例は1950年代とやや時期が遅く、それが行われた文脈も異なるため、資料収集は行ったものの本研究課題の枠組みでは取り上げず、今後の研究課題とした。また、議論を国民国家形成期に限定する必要もあったため、最初の3事例に絞って研究を進めた。

その結果、エジプトのコプトの国民統合に関しては、これまでリベラルなナショナリズム(宗教を問わずエジプトという祖国に忠誠を誓う者をエジプト人とする)が注目されてきたが、コプト共同体内部から宗教的アイデンティティに基づいたエジプト民族意識が呼びかけられていたことが明らかになった。それにより、リベラルなナショナリズムとは別に、コプトのエジプト人意識を支える文化ナショナリズムが存在していたことが判明した。そしてそれは、上記のようなナイルズ祭復興運動、コプト語復興運動、コプト博物館設立などのような具体的な運動として現れた。

また、これらの運動がコプトの俗人信徒によって率いられていたことも重要な点である。これらの運動では、コプト共同体独自の宗教的な象徴が用いられているにもかかわらず、それが「エジプト民族」の象徴に変換されて脱宗教化された。また、そうした形でコプトのエジプト民族意識が構築されたのは、「世俗的な国民国家」という新たな枠組みの中で、コプトが自らの宗教的アイデンティティを手放すことなくエジプト国民/民族としての意識を持つためであったことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. Miyokawa, Hiroko. 'The Revival of the Coptic Language and the Formation of Coptic Ethno-Religious Identity in Modern Egypt'. in Nelly van Doorn-Harder ed., *Copts in Contexts: Negotiating Identity, Tradition and Modernity*. Columbia SC: The University of South Carolina Press, pp. 247-254, (forthcoming, 2017). 査読有

2. 三代川寛子「マイノリティ問題と研究」私市正年、浜中新吾、横田貴之編著『中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』明石書店、216-223 頁、2017 年。査読無

3. 三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒のファラオ主義とコプト語復興運動 イクラウディユース・ラビーブの『アイン・シャムス』の分析を中心に」『オリエント』58 巻 2 号、184-195 頁、2016 年。査読有

4. Miyokawa, Hiroko. 'The Struggle over Egyptianness: A Case Study of the Egyptian Nayruz Festival'. in Laura Robson ed., *Minorities and the Modern Arab World: New Perspectives*. Syracuse: Syracuse University Press, pp. 122-139, 2016. 査読有

〔学会発表〕(計 12 件)

1. Miyokawa, Hiroko. 'The Making of "Modern Sons of Pharaohs" in Early Twentieth Century Egypt'. Co-organised by the Middle East Centre at St. Antony's College and the School of Interdisciplinary Area Studies, University of Oxford, Workshop *Ethno-religious 'Minorities' and Mobilization in the Middle East*, Oxford, UK (9 March 2017).

2. 三代川寛子「コプト博物館に見るコプト・キリスト教徒の宗教文化とナショナル・アイデンティティ」第 8 回コプト・イスラーム物質文化研究会、国土館大学(東京都世田谷区)、2016 年 2 月 20 日。

3. Miyokawa, Hiroko. 'Modern Sons of Pharaohs? Racism, Pharaonism, and the Copts in Early Twentieth Century Egypt'. American Academy of Religion 2015 Annual Meeting, Atlanta, GA, USA (21 November 2015).

4. Miyokawa, Hiroko. 'The Establishment of the Coptic Museum and Its Nationalization in Twentieth-century Egypt'. American Academy of Religion 2014 Annual Meeting, San Diego, CA, USA (23 November 2014).

5. 三代川寛子「古代エジプトへの情熱、古代エジプトに見る夢」日本オリエント学会創立 60 周年記念公開シンポジウム「オリエント研究 「古代への情熱」と「未来への夢」」上智大学(東京都千代田区)、2014 年 10 月 24 日。(招待講演)

6. Miyokawa, Hiroko. 'The Establishment of the Coptic Museum'. The fourth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), Middle East Technical University, Ankara, Turkey (22 August 2014).

7. 三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒の民族意識形成 コプト語復興運動を事例に」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催 2013 年度中東イスラーム研究セミナー、東京外国語大学(東京都府中市)、2013 年 12 月 13 日。

8. Miyokawa, Hiroko. 'The Revival of the Coptic Language and the Formation of Coptic Ethno-Religious Identity in Modern Egypt'. American Academy of Religion 2013 Annual Meeting, Baltimore, MD, USA (23 November 2013).

9. 三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒の民族意識形成 コプト語復興運動を事例に」日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学(京都府京都市)、2013 年 10 月 27 日。

10. 三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプトとファラオ主義：ナイルズ祭復興運動を事例に」人間文化研究機構プログラム「イスラーム地域研究」上智大学拠点「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」研究会 2013 年度第 2 回研究会、上智大学(東京都千代田区)、2013 年 7 月 21 日。

11. 三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプトとファラオ主義：ナイルズ祭復興運動を事例に」第 13 回古代・東方キリスト教研究会、東京大学(東京都目黒区)、2013 年 6 月 8 日。

12. Miyokawa, Hiroko. 'The Struggle over Egyptianness: A Case Study of the Egyptian Nayruz Festival'. Workshop Minorities of the Modern Middle East, Portland State University, Portland, OR, USA (26 April 2013).

〔図書〕(計 1 件)

1. 三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会
研究案内と基礎データ』明石書店、2017年(刊
行決定済) 576頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：
ウェブマガジン『クリスチャン・トゥデイ』
紙にコラムニストとして寄稿。コプト共同体
を取り巻く状況を一般向けに解説。
(URL)[http://www.christiantoday.co.jp/re
porter/miyokawa-hiroko/](http://www.christiantoday.co.jp/reporter/miyokawa-hiroko/)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三代川 寛子 (MIYOKAWA, Hiroko)
上智大学・アジア文化研究所・客員所員
研究者番号：90614032

(2) 研究分担者：なし

研究者番号：

(3) 連携研究者：なし

研究者番号：

(4) 研究協力者：なし